

研究テーマ： 事例に学ぶ車いすシーティング教材の開発	
研究代表者： 保健福祉学部 看護学科 助教 三宅 由希子	連絡先： miyake@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者： 看護学科 / 准教授・青井聡美, 助教・池田ひろみ, 助教・石原克秀 理学療法学科 / 教授・大塚彰 作業療法学科 / 教授・近藤聡, 講師・西田征治, 助教・高木雅之 車いす製作会社タキ商会： 作業療法士 瀧奈美子, 明松志帆, 森俊祐	
<p><b>【研究概要】</b></p> <p>臨床現場では、身体機能や形態に適合した車いすシーティングが十分に行われておらず、車いすの上で崩れた姿勢の状態を見ることも少なくない。そこで、車いすシーティングが高齢者の心身に及ぼす影響について検討を行った結果、車いすシーティングは姿勢の改善だけでなく座り心地を改善できることがわかった。また、本研究は、車いすシーティングの視点を育成する教材開発を行うことを目的とした。教材作成では、図や写真を多くし、車いすシーティングに必要な基礎知識、シーティングプロセスの概説、事例紹介の3部構成とした教材を作成した。</p>	

**【研究内容・成果】**

1. 研究の背景

近年、離床を促す有効な福祉用具として車いすが位置付けられている。車いすの導入により、自力移動の難しい被介助者もベッドから離床でき、日常生活動作(ADL)の向上のみならず、生活の質(QOL)の向上につながるという考え方が定着している。また、車いす利用者の身体機能や形態に合わせて調整できるモジュラー型車いす、座位姿勢を補助するクッションも多く開発されている。さらに、「車いすシーティング」の語も広く使用されるようになり、適切な姿勢を作ることの重要性が認識されている。しかし、病院や施設において、身体や機能に適合した車いすシーティングが十分に行われておらず、患者が車いすの上で崩れた姿勢で過ごす状態を見ることも少なくない。身体や機能に適合していない車いすを使用することは、日常の生活行為を非効率的にし、心身への疲労を招き、ひいては褥瘡、疼痛、緊張亢進、変形拘縮といった悪影響を及ぼす。日常のケアに関わる専門家が身体機能と車いすとの不適合を見抜き、適切な姿勢で日常生活が送れるようシーティングの援助をしていくことが専門家の役割に含まれる。この見抜く力を養うためには、医療・福祉の専門職として教育を受ける初段階から教授することが望ましい。車いすシーティングは、原理原則を理解しただけでは実践することが難しい技術である。そこで我々は、事例を通じた具体的な車いすシーティング教材の開発を行い、その有用性を検討することとした。

2. 目的

保健医療福祉に携わる本学部生に、高齢者の身体機能や車いすシーティングに必要な知識を学び、車いすシーティングの視点を育成する教材開発を行う。

3. 成果の概要

平成24年度の活動として、主に以下の2点を実施した。

1) 車いすシーティングが高齢者の心身に及ぼす影響について

目的 臨床上、頻回に起こる車いす座位と、シーティングのなされた車いす座位での高齢者への心身に及ぼす影響を検証した。

方法

対象者：任意団体に参加し健康促進のためのグループ活動を行っている高齢者の女性で、研究協力に同意の得られた6名

条件設定：臨床上頻回に起こる車いす座位を①骨盤後傾座位、②脊柱側彎座位と設定した。

測定項目：ストレス評価(唾液採取)，生理学的評価(血圧，脈拍)，呼吸機能評価(肺活量，分時換気量)を測定し，主観的アンケート(座り心地)を実施した。

**結 果** シーティング座位は，骨盤後傾座位，脊柱側彎座位に比べてストレスは低く，呼吸機能は良好であるという傾向は認められたが，有意差は見られなかった。座り心地において，シーティング座位は，骨盤後傾座位，脊柱側彎座位に比較し，「心地よい」「楽に過ごせる」という項目で有意に良好な状態であった。これまでの研究で，シーティングの利点として姿勢の改善，座位圧力の改善，食事間の短縮が明らかにされているが，客観的視点のみならず，座位をとる本人の座り心地もよいことがわかった。身体的適合を目的とした車いすシーティングを実施するだけでも，座り心地を改善でき，ストレスを軽減できる可能性がある。

## 2)教材の作成

教材作成にあたり，障がい者支援施設入所中で，車いす座位で何らかの問題を生じていた3名を対象に，①車いすシーティング前の生活状況，座圧，問題点，主観的評価(乗り心地，漕ぎやすさ，苦痛)，②本人の希望や介助者の希望を考慮した車いすシーティングの実践，③車いすシーティング後の生活状況，座圧，主観的評価(乗り心地，漕ぎやすさ，苦痛)について情報収集を行った。教材は，図や写真を多くし，知識を可視化できるよう努めた。第1章で基本的な車いすシーティングに必要な基礎知識，第2章でシーティングプロセスを概説したあと，第3章で3つの事例を紹介し，事例を通してシーティングを学ぶ構成とした。

### 第1章：車いすシーティングに必要な基礎知識

- (1)シーティングの概念
- (2)車いすの名称と機構
- (3)車いすの身体的適合
- (4)理想的な車いす座位姿勢
- (5)临床上よく見られる問題のある座り
- (6)シーティングに使用される用具



図1. シーティングの視点

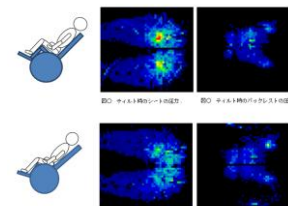


図2. 姿勢による体圧の違い

### 第2章：シーティングプロセスの概要

車いすシーティングに日々携わっている作業療法士に，シーティングの視点やポイントの聞き取りを行い，シーティングプロセスの概要を図示した。

### 第3章：シーティング事例

(1)身体機能と車いすとの不適合に気付けるよう，シーティング前の写真とシーティング後の写真と生活状況を提示した。また，基礎知識と事例を結び付けられるよう，プロセスに合わせたシーティングの流れを提示し，実際に行われたシーティングを，車いすの一部を拡大図し，説明を加えた。



図3 シーティング前後の様子



図4 シーティングの具体例

## 4. 今後の予定

作成した教材を用いた演習を実施し，評価を行い，教材の有用性を検討する予定である。